

美学・西洋美術史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
美学・西洋美術史特論Ⅰ	ネーデルラント絵画と感性の論理	2	尾崎 彰宏	1学期	金	3	1
美学・西洋美術史特論Ⅰ	凱旋門と活人画	2	京谷 啓徳	集中(1学期)			2
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美学演習(前期)	2	フォンガロ エンリコ	1学期	木	5	3
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美術史にかんする 方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	1学期	金	5	4
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美学演習(後期)	2	フォンガロ エンリコ	2学期	木	5	5
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美術史にかんする 方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	2学期	金	5	6
美学・西洋美術史研究実習Ⅰ	西洋美術史の基礎知識と調査入門	2	尾崎 彰宏	1学期	火	3、4	7
美学・西洋美術史研究実習Ⅱ	美術作品の記述と西洋美術の見方	2	尾崎 彰宏	2学期	火	3、4	8
課題研究 (美学・西洋美術史)		4	尾崎 彰宏	通年	月	1	

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Lectur

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM15305， 科目ナンバリング：LHI-ART607J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ネーデルラント絵画と感性の論理

2. Course Title (授業題目)：

Netherlandisch Paintings and the Logic of Sensibility

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていききたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていきたい。

現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示すようにしたい。

4. 学習の到達目標：

美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イン트로ダクション

第2回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第3回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第4回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第5回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第6回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第7回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第8回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第9回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第10回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第11回 レンブラントⅠ

第12回 レンブラントⅡ

第13回 レンブラントⅢ

第14回 18世紀ネーデルラント絵画

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

教室で指示する

8. 授業時間外学習：

講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Lectur

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：京谷 啓徳（非常勤講師）

講義コード：LM98825、科目ナンバリング：LHI-ART607J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

凱旋門と活人画

2. Course Title (授業題目)：

Triumphal Arches and Tableaux Vivants

3. 授業の目的と概要：

活人画とはフランス語「tableau vivant（生きている絵画）」の翻訳語であり、衣裳を身に着けた人物が静止した状態で絵画を再現するパフォーマンスを意味する。明治期の日本には各種西洋風俗が流入したが、その一つである活人画は当時たいへんな流行を見た。そして明治の人々が活人画に打ち興じていたちょうどその頃、日清日露の戦勝を祝賀して全国に陸続と建設されたのが凱旋門であった。凱旋門と活人画、このまったく無関係に思える二つの西洋風俗は、実はかつて、ルネサンス期のヨーロッパにおいて結びついていた。両者は一体となってルネサンス宮廷の君主のスペクタクルを形作っていたのだ。本講義では「凱旋門と活人画」という新たな視点から、ルネサンス宮廷文化と近代日本をつなぐ糸を探ってみたい。

4. 学習の到達目標：

「凱旋門と活人画」という観点からスペクタクル文化を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに
2. ルネサンスのハリボテ凱旋門(1)
3. ルネサンスのハリボテ凱旋門(2)
4. ルネサンスの活人画(1)
5. ルネサンスの活人画(2)
6. ポッセッソ―新教皇のスペクタクル(1)
7. ポッセッソ―新教皇のスペクタクル(2)
8. 近代の凱旋門
9. 近代の活人画(1)
10. 近代の活人画(2)
11. 近代の活人画(3)
12. 明治の凱旋門と活人画(1)
13. 明治の凱旋門と活人画(2)
14. 額縁ショウをめぐる
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する

8. 授業時間外学習：

特になし

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Semina

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LM14502， 科目ナンバリング：LHI-ART609J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美学演習（前期）

2. Course Title（授業題目）：

Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Seminar)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。

4. 学習の到達目標：

西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

今年は特に、ドゥルーズのイメージおよび映画論を中心として議論をすすめる予定である。
文献を原文で、または日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。
取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。
参加者は、授業後、授業外に指定された映画を鑑賞することを必須とする。

6. 成績評価方法：

授業における議論および、最終口頭試験により総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書

ジル・ドゥルーズ（著）

Cinéma 1: L' image-mouvement（1983）『シネマ 1 運動イメージ』財津理、斎藤範訳 法政大学出版局、2008

Cinéma 2: L' image-temps（1985）『シネマ 2 時間イメージ』宇野邦一ほか訳 法政大学出版局、2006

ベルクソン（著），熊野 純彦（翻訳）『物質と記憶』（岩波文庫）文庫

その他講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。映画を鑑賞する（必須）。

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Semina

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM15504， 科目ナンバリング：LHI-ART609J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術史にかんする方法論の諸問題

2. Course Title（授業題目）：

Problems of Methodology on Western Art History

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。

4. 学習の到達目標：

西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。批判力や作品を分析する能力が身につくと同時に、英文を精読するスキルが身につく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イン트로ダクション

第2回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅰ

第3回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅱ

第4回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅲ

第5回 ネーデルラント美術関係文献Ⅰ

第6回 ネーデルラント美術関係文献Ⅱ

第7回 ネーデルラント美術関係文献Ⅲ

第8回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅰ

第9回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅱ

第10回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅰ

第11回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代美術関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代美術関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代美術関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポートを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

授業で指示する。

8. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Semina

曜日・講時：後期 木曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ（准教授）

講義コード：LM24502， 科目ナンバリング：LHI-ART610J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美学演習（後期）

2. Course Title（授業題目）：

Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Seminar)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学に関する文献を原文で、場合によっては日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。また、取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。参加者は、自分の興味分野と問題意識にもとづき、積極的に議論に参加することが求められる。

4. 学習の到達目標：

西洋美学に関する文献を精読し、西洋美学における基礎的な概念について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に引き続き、ドゥルーズのイメージおよび映画論を中心として議論をすすめる予定である。

文献を原文で、または日本語訳を参照しながら精読し、そこに書かれた概念について説明を行なっていく。

取り上げられたトピックにもとづき、美学の諸問題に関して議論を行なう。

参加者は、授業後、授業外に指定された映画を鑑賞することを必須とする。

6. 成績評価方法：

授業における議論および、最終口頭試験により総合して評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書

ジル・ドゥルーズ（著）

Cinéma 1: L' image-mouvement（1983）『シネマ1 運動イメージ』財津理、斎藤範訳 法政大学出版局、2008

Cinéma 2: L' image-temps（1985）『シネマ2 時間イメージ』宇野邦一ほか訳 法政大学出版局、2006

ベルクソン（著），熊野 純彦（翻訳）『物質と記憶』（岩波文庫）文庫

その他講義中にプリントを配布する。

8. 授業時間外学習：

授業中に出された課題について自分の考えをまとめる。映画を鑑賞する（必須）。

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Semina

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM25504， 科目ナンバリング：LHI-ART610J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術史にかんする方法論の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Problems of Methodology on Western Art History

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboekに掲載された論文を中心に取りあげる。2016年前半に刊行される最新の研究書の中から興味深い部分を取りあげる。(この演習は前期からの続きなので、ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい)

4. 学習の到達目標：

西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できると同時に英文を精読するスキルが身につく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イン트로ダクション

第2回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅰ

第3回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅱ

第4回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅲ

第5回 ネーデルラント美術関係文献Ⅰ

第6回 ネーデルラント美術関係文献Ⅱ

第7回 ネーデルラント美術関係文献Ⅲ

第8回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅰ

第9回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅱ

第10回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅰ

第11回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代美術関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代美術関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代美術関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

8. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることが求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要がある、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究実習Ⅰ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Labora

曜日・講時：前期 火曜日 3講時. 前期 火曜日 4講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM12304， 科目ナンバリング：LHI-ART611J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

西洋美術史の基礎知識と調査入門

2. Course Title (授業題目)：

Basic Understanding of Western Art History and Introduction to its Research Methodology

3. 授業の目的と概要：

西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。

4. 学習の到達目標：

美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひととおり自分で行えるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、発表の仕方、展覧会評の書き方
2. 展覧会見学
3. 写真撮影の仕方
4. 調書の作り方、作品記述の方法
5. 発表
6. 展覧会見学
7. 学術文献、論文の探し方
8. 小テスト、発表
9. 小テスト、発表
10. 展覧会見学
11. 小テスト、発表
12. 小テスト、発表
13. 小テスト、発表
14. 小テスト、発表
15. まとめ

※受講生の習熟度や展覧会の開催日程により、実習の内容に変更が生じることがある。また、美術館見学や資料作成のやり方、プレゼンテーションについては、博物館勤務経験のある助手の山田今日子が指導に当たる。

6. 成績評価方法：

レポート、テスト、出席などによって評価する。

7. 教科書および参考書：

教科書：H・W・ジャンソン『西洋美術の歴史』（創元社）

8. 授業時間外学習：

表の準備、小テスト対策（復習）、展覧会評の提出

9. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究実習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts(Advanced Labora

曜日・講時：後期 火曜日 3講時, 後期 火曜日 4講時

学期：2 学期, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LM22306, 科目ナンバリング：LHI-ART612J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

美術作品の記述と西洋美術の見方

2. Course Title (授業題目)：

How to describe art works and to look at them

3. 授業の目的と概要：

美術史は何よりも作品観察から出発する。この作品をどのように観察し、それを言葉で表現するか、そのためにはどのようなアプローチが必要かを学ぶ。空想の展覧会を企画し、実際にカタログの作成を行う。

4. 学習の到達目標：

美術作品にかんするより高度な観察力と記述力を養うことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 はじめに

第2回 空想の美術展の作成のための準備Ⅰ

第3回 空想の美術展の作成のための準備Ⅱ

第4回 空想の美術展のタイトルについて

第5回 空想の美術展のコンセプトⅠ

第6回 空想の美術展のコンセプトⅡ

第7回 美術館へ作品見学Ⅰ

第8回 空想の美術展の作品選定Ⅰ

第9回 美術館へ作品見学Ⅱ

第10回 空想の美術展の作品選定Ⅱ

第11回 美術館へ作品見学Ⅲ

第12回 空想の美術展の中間報告

第13回 空想の美術展の仕上げ

第14回 美術館へ作品見学Ⅳ

第15回 空想の美術展の合評会

6. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート総合的に評価する。

7. 教科書および参考書：

ジャンソン『美術の歴史』、その他は教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

可能な限り美術館をまわりじかに作品に接するように努力する。機会を得てヨーロッパへ美術作品を実際に見に行けるようになれば望ましい。

9. その他：